

## 堺泉北港泉北6区緑地(2)

私は「泉大津市に野鳥園をつくろう会」の世話人の一人です。泉大津市に住んでいます。

会長のSさんは平成10年に亡くなりました。会の発足当初から先頭に立って、行政との交渉に当たってくださり、自宅の一室を会の事務所に提供してくださるなど、物心両面にわたって活動を支えていただきました。数多くの野鳥の写真を撮り、短歌をよみ、野鳥園ができるのを楽しみにされていたんですが、間に合わなくて、とても残念です。

今お配りしましたカードは、Sさんが撮られた写真からつくったポストカードです。

ちょっと話がさかのぼるんですが、助松の埋め立てが一時中断していたときがありまして、そのときに水辺に干潟ができて、そこへ散歩に行かれたSさんが、とっても鳥がたくさんいて、鳥の国に迷い込んだというような感動をされたそうです。それで市長に、この環境、この場所を残してほしいということで、手紙を書かれて、そのときに添えられた歌です。〈埋め立ての橋を渡れば 鳥群れて 渚もちたる夢の島あり〉。短歌をよまれる方だったので、それを付け加えられたそうです。

「泉大津に野鳥園をつくろう会」というのを、鳥を見にきていた人たちと、泉大津市の市民の人たちだけではありませんが、つくりました。会長にSさんがなってくださいました。

しばらく私たちの活動を見ていただきます。当時、活動したことがよく新聞に取り上げられたんです。それで、ちょっとわかりやすいかと思って、新聞の切り抜きを持ってきました。この禁漁区にしてほしいというのは、ハンターが入りまして、カモ撃ちをしたんです。それで、カモが寄りつかなくなってしまうということがあります。

ここは埋め立てを中断してましたので、休みの日になると、広々してますので、バイクで走り回る人とか、車で走り回る人とか、ゴルフの練習をする人とか、ラジコンの飛行機を飛ばす人がいます。コアジサシというのは、卵や雛が地面と同じような色をしていますので、踏みつぶされたりして、ちょっと危険だったので、「つくろう会」の早速の仕事として、禁漁区にしてほしいということと、コアジサシを守るために、ここはちょっと入らないでくださいという立て看板を立てたりしました。

ラジコン飛行機の人たちにも直接会って、「違う場所で飛ばしていただいけませんか」と言うと、割とわかって、場所を離れてくださる方もあったりして、うまくいっていたんです。

このままではなかなか進まないと思って、当時の知事と対談をしました。そのとき、知事に私たちが訴えたのは、堺から南の海辺は埋め立てることだけが進んでいて、自然環境に対して何もできていない。東京には大井の野鳥園ができているということ。できましたら、海辺を失うだけではなくて、干潟のある野鳥園をつくってほしいということを訴えました。

この後、署名運動を始めました。署名をするというのは一般的なやり方ですけども、野鳥園をつくってくださいという署名を集めました。知事も地元へ見に来てくださって、港湾の方たちと勉強会をしたりして、だんだん盛り上がっていったんです。

最終的には、お配りしています資料の1990年のところ、泉大津市と高石市と一緒に話し合いまして、正式に野鳥園と干潟を盛り込んだ内容になりました。

埋立地での観察会が続けられなくなったんです。埋め立てが進んでしまいましたし、環境が良くないので、大津川に観察場所を移して、干潟に来る鳥は、どんな鳥がどれくらい来るのかということだけはちゃんと調べておこうと思って、毎月観察会を続けています。それから、地元の人たちにも訴えるように、ふれあいフェスティバルとか、エコフェスティバルとかいうときは、必ず写真展をして訴えています。

私たちは人が当たり前になじんでいた海辺の楽しみを失ってしまいました。海水浴とか、海の家とか、潮干狩りとか、松林とか、砂浜とか、昼顔とか、言い出したら切りがないというほどです。干潟ができるというか、環境に配慮した公園ができれば、自然と人が共生し、共に生きる力を受け取る場所ができると思います。野鳥園ができるだけよい形でできますように、見直していただきますようお願いして、私の意見陳述を終わります。